

# 令和2年度第2回庄原市道徳教育推進委員会研修会

- 日時：令和3年2月16日（火） 14：00～16：35
- 場所：庄原市ふれあいセンター コパリホール
- 対象者：庄原市内各小・中学校の道徳教育推進教師26名

## 目的

- ・「特別の教科 道徳」における評価の在り方について理解する。
- ・主体的・対話的で深い学びにつながる授業づくりに向けた校内研修の在り方について理解する。

## 講話・演習 「『特別の教科 道徳』における評価について」 庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 砂走 敏和



### 【講話・演習の概要】

- 道徳科のねらいは道徳性を養うことである。道徳科の指導で評価すべきことは、「学習状況」や「成長の様子」であり、内面的資質である道徳性ではないことを確認した。  
演習では、評価として適切ではない文例をもとに、「大きくりなまとまり」「多面的・多角的な見方」「自分自身との関わり」などの視点でどのように評価することが適切であるかについて交流した。  
児童生徒にとって、認め励まされる評価となるためには、指導の工夫が必要である。指導と評価を一体的に捉え、授業改善を図っていくことが大切である。

### 【参加者から】

- ・ 道徳科における評価について、校内でより一層の意識統一を図るため、評価文例について検討をする研修を行いたい。

## 講話・演習 「『特別の教科 道徳』のさらなる充実を図るために」 広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 渡辺 剛



### 【講話・演習の概要】

- 道徳教育推進教師が自校の校内研修でも活用できる演習を実施した。  
教師は、教材で指導すべき内容項目について、「生きていく上で、〇〇は、なぜ大切なのか。」そして、「教材から何に気付かせたいか。」をもって、児童生徒とともに考えることが必要である。指導の際、教師は「教える」のではなく「気付かせる」ことが大切である。そして、児童生徒から多様な感じ方や考え方を引き出すためには、発問が大切となってくる。発問のパターンを提示し、それらがどのような役割をもっているかを考えた。  
また、道徳科の充実にあたり、カリキュラム・マネジメントの視点も必要となる。教育活動全体で道徳教育を進めていくことも大切なポイントである。

### 【参加者から】

- ・ 道徳教育アーカイブを活用した校内研修の具体を知り、本校でも行いたいと思った。
- ・ 授業をどのように展開するか、どのような指導方法を行うことができるかという視点で授業を考えていたが、主題解釈を主眼に置いた教材研究を行う必要があると思った。